

平成 27 年度 地域スポーツクラブシンポジウム 報告書

2015 年 6 月 27 日（土）東京体育館 第一会議室

テーマ「地域スポーツクラブの原点を問う」

地域スポーツクラブの育成施策が始まってから 15 年が経過し、東京都内にも 124 の地域スポーツクラブが設立されました。今後、このような量的な拡大をしてきた地域スポーツクラブが質的な充実を図るには、「なんのために設立したのか」や「地域の中でどのような役割を果たしたいのか」といった地域スポーツクラブの意義に沿った展開が求められます。そこで今回のシンポジウムでは、地域スポーツクラブが地域での「つながり」を生み出し、スポーツの持つ力を活用しながら地域コミュニティを形成するために、地域スポーツクラブの原点を問い直すことを目的としました。

【基調講演】

- 「地域スポーツクラブの原点を問う」

柳沢 和雄 氏（筑波大学体育系 教授）

「地域スポーツクラブ育成の背景」から「政策と地域スポーツクラブの関係」、「地域スポーツクラブの現状と課題」、「地域スポーツクラブ育成の意義」と地域スポーツクラブの原点を問い直すには必要不可欠な 4 つの柱を中心とした基調講演でした。地域生活を範疇とした「地縁」を重んじることや、その地域内に潜在する課題を共有し理解すること、「互助・共助」という多様な他者を認め合う、支え合うことが地域スポーツクラブの基本理念であり、これを実現するためには「地域スポーツ」と「地域」の自立的な活動が重要であるとのお話でした。

【パネルディスカッション】

- 「なぜ地域スポーツクラブなのか」

◇コーディネーター

柳沢 和雄 氏（筑波大学体育系 教授）

◇パネリスト

菊池 正 氏（NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF）

毛利 美佐子 氏（NPO 法人総合型地域スポーツクラブ平和台）

杉村 雅子 氏（若林クラブ）

まず、「なぜ地域スポーツクラブなのか」というテーマで、クラブの設立経緯や現在の運営状況を中心に菊池氏、毛利氏、杉村氏によって事例報告がなされました。そこ

では、設立経緯や、会員規模、財政規模といったクラブの状況は異なるものの、地域との関わりを重視し、それぞれの地域に応じた事業展開、クラブ運営が行われていることがわかりました。その後、コーディネーターである柳沢氏が中心となって議論を深め、地域住民や行政との関係づくりや、各クラブが抱えている課題やその対応策等、参加者にとって有意義なパネルディスカッションとなりました。

今回のシンポジウムでは地域スポーツクラブの意義を問うことを目的とし、育成の背景や政策との関係、現場での実践といった講演や報告を通して、地域スポーツクラブの原点を問い直すうえで重要な視点や考え方を共有し、深めることに焦点が当てられました。しかし、事例報告から分かるように、それぞれのクラブが根ざす「地域」は多様であり、各々の地域スポーツクラブの役割は一括りにはできません。また、「地域」は非常に流動的であり、多様なニーズに応えなければなりません。今後、地域スポーツクラブが維持・発展していくには、各々のクラブが様々な視点からクラブの役割や意義を絶えず問い続けながら活動していくことが求められると思います。

